

生ごみ分別・資源化モデル事業【大山自治会（1～13号棟）】第2回現状調査結果がまとまりました！

● はじめに

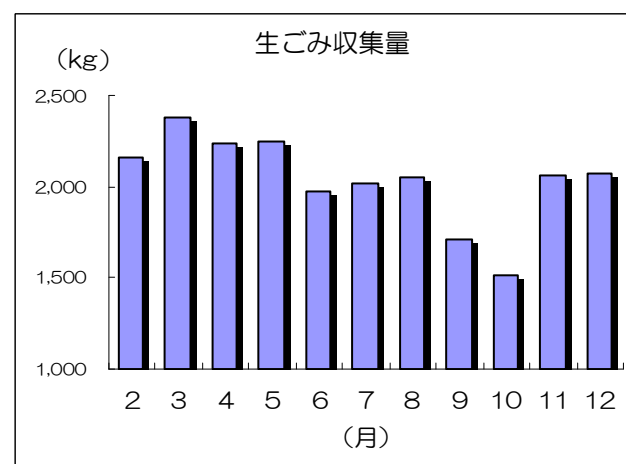
この事業は、燃やせるごみのうち約40%を占めている生ごみの減量を行うために、大山自治会の1～13号棟にお住まいの約550世帯を対象に、平成23年2月から26年3月まで（3年2ヶ月）の計画期間で実施しています。事業開始後、約1年を経過することから、2回目の現状調査を行いましたので、その状況についてご報告いたします。

● 協力率および検証結果

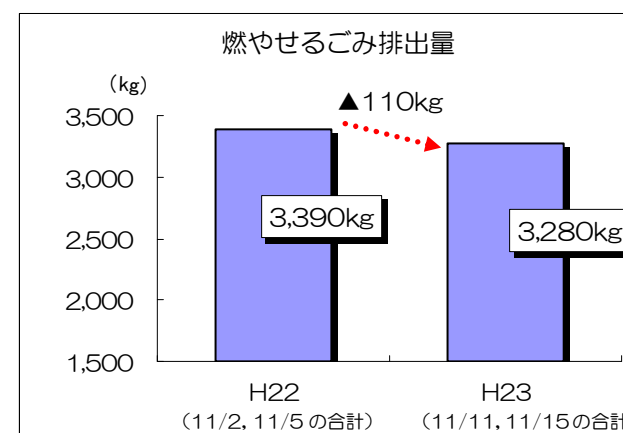
平成23年11月に実施した「燃やせるごみの組成分析調査」では、22年度と比べ、燃やせるごみの排出量は110kg減少しており、混入している生ごみの量は6.7ポイント減少しています。また、ご協力いただいている世帯も事業開始当初より増加しており、協力率は1.1%上昇しました。

居住世帯数:543世帯 参加世帯数:397世帯 協力率:73.1%

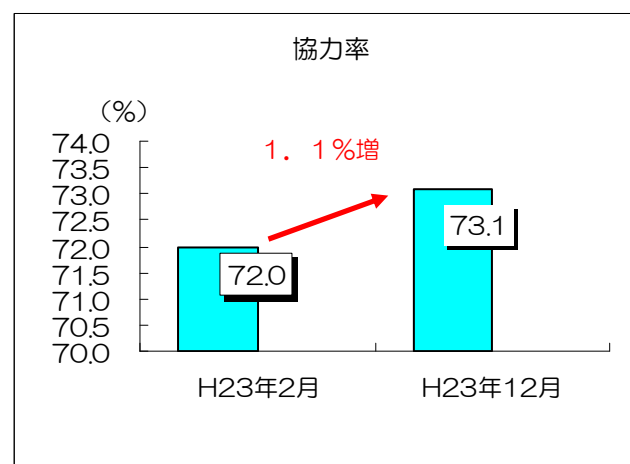
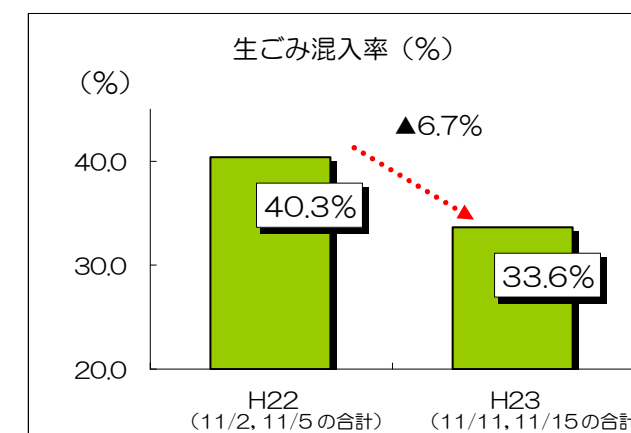
生ごみ収集量（kg）の年間推移



燃やせるごみ排出量の推移



生ごみ混入率（%）の推移



大山自治会佐藤会長にインタビューしました！



Q. 生ごみ分別・資源化モデル事業がスタートして約1年が経過しましたが、この1年間で団地内で変化したことはありますか？

A. この事業を機に各会員の皆様のごみに対する意識が、日に日に高くなってきたと思います。各棟ごとで自主的にごみ減量・分別を行うという協力体制が徹底されており、様々な団体から、「大山団地はきれい」と言われる事に今は喜びを感じています。

Q. このモデル事業後に、自分自身の生活で何か変化はありましたか？

A. 自分自身も無駄な買い物をしなくなり、色々我慢することも増え、マイバッグ（エコバッグ）の持参も当たり前になりました。また、生ごみだけでなく、紙やプラスチックなど他のごみ減量・リサイクルについても家族ぐるみで取り組むことで、以前よりもコミュニケーションが取れるようになりました。

● まとめ



事業開始から大山自治会の会員の皆様のご理解、ご協力により生ごみ収集量は比較的安定しており、また、排出されている生ごみに関しても大変良い質を維持できています。今後も継続的に組成分析調査を実施し、データの蓄積や検証を行っていく予定です。

